

横浜市立大学学術情報センター

# 貴重書 月替わり展覧会リーフレット (170)

2025 年 11 月の作品は

するがわん とおとうみとうひん  
「駿河湾—遠江東瀨—」

展示テーマ

～駿河湾の航路を描く紙背文書の古地図～

駿河湾は、静岡県に位置する湾である。大きさこそ日本の他の湾と比較すると上位ではないものの、水深では 2,500 メートルを超え、日本一を誇る。駿河湾に面する沼津市には、駿河湾で見られる珍しい深海魚に焦点を当てた「沼津港深海水族館」も存在し、観光客からの人気を博している。静岡県には富士山の湧水の名所や、それらが流れる川が多くあり、最終的に流れ着く地点としてこの駿河湾が存在している。この地図を選んだ理由としては、まさに私の地元である駿河国の周辺について詳しく描かれた本地図で、当時の地域の描かれ方を知りたいと考えたからである。

今でこそ船での輸送や移動は通常のこととして行われているが、今回紹介する地図が描かれた江戸時代はようやく航路が整備された時代である。その安全性は、通信で海上でも地上と情報をやり取りできる現代とは比べ物にならない。その時代に作られた「海岸図」はどのようなものであるか、他には何が描かれているのかについて本記事では述べていく。また、両面になっている地図の裏側の文章についても読み解いていく。



するがわん とおとうみとうひん  
「駿河湾 遠江東瀨」

(1 枚)

江戸時代

安政 2 (1855) 年

作者：酒井喜熙  
(1805～1880)

縦 38cm × 横 51cm

この作品は、江戸時代幕末期である安政 2 (1855) 年に描かれた作品の写本である (写本であると考えた理由は後述する)。原本の著者は酒井喜熙という水戸藩士である。『皇国総海岸図』という樺太・千島列島から八重山列島までの沿岸の詳細地図を記した作品のうちの 1 枚であり、彼が嘉永 5

(1852) 年に水戸藩御船手奉行に任じられた時から編集を始め、安政 2 (1855) 年に完成した。この作品を通して記号が定められており、地名や航路、港や神社等が記号に従って描かれている。本地図は作品中の第 7 図であり、駿河湾の航路、富士山までの駿河湾周辺地域の地名や山の地図が描かれている。地図記号が描かれているページには、他に著者酒井の文章と「潜竜閣蔵書記」という徳川斉昭の蔵書印、また「秘閣圖書之章」、「日本政府圖書」、「内閣文庫」の印が押されている。

地図記号は、航路に関するものが多く作成されている。地図上には、駿河湾の上に大きく赤い三角形が描かれているが、これは記号によると大航路であり、御前崎、清水湊、伊豆下田の三点が結ばれる。御前崎の地点からはさらに西へ航路が伸びており、御前崎一点を示すというよりも以西につながる航路 (江戸時代前期に整備された西廻り航路と推測する) との交差点なのではないかと考えた。続いて清水湊は甲信州からの米や油、塩等の輸送経由地であり、江戸への年貢米も含まれていた。伊豆下田は伊豆半島の東側であり、駿河湾と直接面していないため交差点が地図上で確認できないが、記号のそばに「伊豆下田」の文字が書かれており、航路の先が伊豆下田であることがわかる。

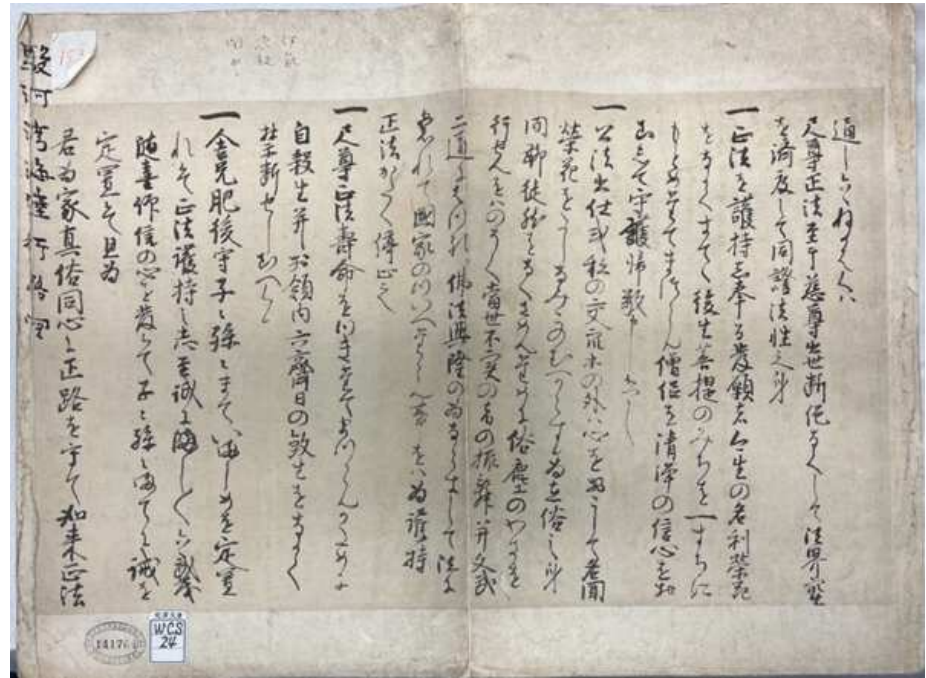
<地図の記号 一覧>

—(赤太線)…大航路 —(赤細線)…小航路及道路 □(黄色四角)…湊及煙稠密の處 (人が密集しているところ) ○(赤丸)…湊之譚 ■(赤正方形)…湊常燈 (現在の灯台) ■■(赤長方形)…遠見番所 (江戸幕府が沿岸各地に設けた、外国船を見張るための番所) 基場 (だいば) 等 ・(黒点)…暗礁 (海中に隠れていて見えない岩) …(黒点集合)…顕礁 (岩の多い波打ち際) —(黒線)…国境 …(点線)…群界 ○(黒丸)…名所 (江戸時代に誕生、旅行等で実際に行ける場所) △(三角)…古城地 門…神社 山…寺

展示のみどころ

～地図の正体と裏面との関係～

本地図は片面のみの記載であり、裏には一面に文章が書かれていた（下図）。初めは地図に関する記述なのではないかと考え、この文章が何であるのかを読み解いていったが、実はこの文章が地図とは関係ないものであるということに気がついた。というのも、この文章の正体は「菊池武茂起請文」という文の一部であり、本起請文の提出者や提出先と駿河国との関係性は見つけられなかったのである。そして、文章との関連性がないことから、この地図は一枚で作成されたものではないという考えが導き出され、調査の結果、本地図が「皇国総海岸図」の一部であるということが判明した。現在原本である冊子は函館市中央図書館に所蔵されており、それをデータ化したものと比較してみたところ、筆跡や描かれているものが異なっているため、横浜市立大学が所蔵するものは写しであると考えられる。また裏面に記された起請



文についても、原本は国指定重要文化財の紙本墨書「広福寺文書」であり熊本県立美術館が保有しているため、写しであると考えられる。裏面の左上に「駿河湾海陸行路図」の文字があるが、明らかに墨の濃さ、筆跡は起請文のものと異なり、後から書き足されたものであると考えられる。また、地図と起請文の面では紙質が異なり、折れ目の部分に若干の浮きが見られることから、地図は起請文の書かれていた紙に貼り付けられたのではないかと推測した。書き足された「駿河湾海陸行路図」の字は縦に割れており、紙が折り返されている部分との境目となっていることがわかる。起請文の書かれた部分の少し外側に四角い境目が見られることから、起請文もさらに大きな紙に貼り付けられたものであると思われるが、境目に段差はほとんどなく、さらに昔にかなり綺麗に貼り付けられているのではないかと考えられる。また、起請文が途中から始まり途中で終わっていることから、もっと長い文書の一部が切り取られ、使用されたのではないかと考えた。地図の面にも、うっすらとはあるが、二つ折りの線以外にも折り目のような線が見られるため、元は小さく八等分に折りたたまれ保管されていたのではないかと考える。地図の紙質は起請文のものとは比べるとかなり新しく、そして薄いものである。二つ折りの地図として保管するにあたり、補強として厚くて大きさのほぼ変わらない起請文を使用したのではないかと結論づけた。

参考文献

- ・大久保道舟（1961）「広福寺文書 菊池武茂起請文」『曹洞宗古文書 上巻』曹洞宗古文書刊行会，543.
- ・国立公文書館「皇国総海岸図」『国立公文書館デジタルアーカイブ』  
<<https://www.digital.archives.go.jp/file/1225428>>（アクセス日：2024 年 10 月 16 日）.
- ・静岡県（2023）「過去の地震情報」『静岡県ホームページ』  
<<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/kenchiku/taishinka/1041569/1041769/1041770.html>>（アクセス日：2024 年 10 月 21 日）.
- ・静岡県交通基盤部港湾局（2014）『駿河湾港整備基本計画』.
- ・鈴木格禪（1989）「祇陀大智と菊池一族」『印度學佛教學研究第三十八巻第一號』163-169.
- ・函館市中央図書館「皇国総海岸図」『函館市中央図書館デジタル資料館』  
<<https://archives.c.fun.ac.jp/documents/1810611739/0011>>（アクセス日：2024 年 10 月 16 日）.

あとがき ～貴重資料に触れて～

初めて古地図というものに触れ、地図の見方や現在との違いを探索作業は新鮮なものであった。両面で一つの作品であると考えて読み解きを始めたため、全く関係のない資料同士が貼り付けられているのではないかと気づいた時には驚いたが、それぞれどのような資料なのかを考えることはとても面白かった。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。

※過去の展示はオンラインでも公開中です！

※第 171 回展示は令和 7 年 12 月上旬からを予定しています。



令和 7 年 11 月 4 日発行  
令和 6 年度 日本文化論 B 受講生 編集  
236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2  
横浜市立大学 学術情報センター